



平成27年度釧路管内学校図書館活性化推進事業

学校図書館の効果的な活用・魅力ある学校図書館づくりに向けて

平成27年7月31日(金)、釧路市立湖畔小学校を会場に、平成27年度釧路管内学校図書館活性化推進事業を開催しました。当日は管内外から学校関係者や公立図書館職員など42名が参加し、講義や事例発表、ワークショップ等を通じて、子どもにとって一番身近な図書館である学校図書館の一層の充実について研修を深めました。



講義 「今、求められている学校図書館」

北海道教育大学非常勤講師(全国学校図書館協議会スーパーバイザー) 大久保 雅人氏

- 2014年6月に「学校図書館法の一部を改正する法律」が可決・成立し、「学校司書」が明記された意義は大きい。現在、学校司書の配置等は努力義務であるが、国及び地方公共団体において、学校図書館法の実体化が図られることを期待する。
- 21世紀は、地球規模で情報が行き交い、幅広い知識と柔軟な思考力・判断力が求められる知識基盤社会である。このような社会において、自ら考え判断し、表現し、行動できる力を備えた自立した社会人を育成するためには、子どもたちの「言語活動の充実」が不可欠である。
- 学校図書館は、学校教育の中核として、児童生徒の健全な教養を育成する「読書センター」、学校教育課程の展開に寄与する「学習センター」「情報センター」としての機能を発揮することが求められる。
- 家庭・地域・学校等、社会全体で子どもの読書活動の推進を図るためには、公立図書館による物流システムの構築や、教職員・ボランティアを対象とした研修会の開催など、学校図書館への支援を積極的に行う必要がある。
- 生涯学習の観点から、地域住民等による「読書コミュニティ」へ子どもたちの参画を図っていくことが大切であり、学校図書館はその拠点となるものである。



【参加者の感想】

- 学校図書館の必要性をあらためて感じました。子どもたちにとって必要な読書環境・図書館づくりを進めていきたいと思いました。
- 国や道の法整備や計画等について理解することができました。読書活動の大切さを再認識しました。



事例発表 「学校図書館の効果的な活用」

鶴居村立下幌呂小学校教諭 明見 英里香氏

- 講師は、昨年度まで釧路市立湖畔小学校で司書教諭として勤務し、平成24年度の校舎建替えによる新しい学校図書館づくりに一から携わった。
- 新しい学校図書館づくりのために3つのコンセプトを掲げ取り組んだ。

1 子どもに興味をもってもらえるような場所にする

- ・季節ごとの入口展示や館内表示の工夫、また、毎月テーマを決めて本の展示に取り組んだ。
- ・子どもが本を手に取りたくなる場所にするため、選書は「学習に使える本、教師が読ませたい本、子どもが読みたい本」のバランスを心がけた。



2 本と人をつなぐ場所にする

- ・図書委員のほかに、元図書委員や読書活動に関心の高い児童により発足した「図書室コンシェルジュ」により自主企画イベント等に取り組んだ。
- ・校長先生のブックトーク、図書室ボランティア「おはなしたっきゅうびんみみずく」による読み聞かせ・本の整理、市立図書館など大人の支援。



3 子どもの居場所となるような場所である

- ・学校図書館は、本を借りにくることをきっかけとして、宿題や学級の係の仕事、掛け算の練習などをしていい場所。
- ・みんなで利用できる自由さが安心感を生み、違う学年の子同士が仲良くなるなど異学年の交流の場にもなっている。



【参加者の感想】

- 参考になる取組が多く、自校の図書室でも実践していきたいです。
- 環境だけでなく、先生方の努力があって素敵な図書館になっていることを実感しました。
- 子どもたちが気軽に図書館に入れる雰囲気はとても大切だと感じました。





ワークショップ「魅力ある学校図書館の環境整備のポイント」

北海道立図書館総務企画部企画支援課長 桑原裕子氏



- 現在、多くの学校が「古い本を何とかしたい」「授業でもっと図書館を活用したい」「子どもが喜んで本と触れ合う場所にしたい」など、学校図書館に関する悩みを抱えている状況である。
- 次のような工夫をすることによって、子どもにとって魅力ある学校図書館に改善することができる。

リニューアルのポイント

1 図書を更新する～除架（除籍）

- ・ 背表紙が古くて白っぽくなっている本、手垢で汚れて茶色く変色している本、データが古く信用できない本

2 ディスプレイを工夫する

- ・ 季節に合わせた展示を心がける
- ・ 授業に関する資料やニュースの話題など、子どもが知りたいことをいち早く展示する

3 表示・装飾を工夫する

- ・ 図書館入口に図書館だよりを掲示する、館内に分類表を掲示する、書架にどんな本が分かる表示をするなど、分かりやすく親しみを感じる表示や装飾をする

4 レイアウトを工夫する

- ・ 背の高い本棚は壁際に配置し、低い本棚は中央に配置するなど、使いやすく明るいレイアウトを心がける



【参加者の感想】

- ワークショップをしてみて、本の魅力を最大限に引き出すことが、図書館整備のポイントだということを実感しました。
- 本の表紙を見せるためのスペースの確保の仕方について答えが得られてよかったです。早速学校で除架を進めていきたいです。



情報交流「各市町村の学校図書館に関する実情交流」

釧路教育局教育支援課社会教育指導班主査 清水秀紀



- 子どもにとって一番身近な図書館である「学校図書館」の活性化を図るために、次の2点について参加者同士の実情交流を行った。

【話題1】魅力ある図書館づくりについて

《参加者から》

- ・ 新刊図書の案内、図書委員によるポスターの作成など、児童生徒への活動の周知活動に取り組んでいる。
- ・ 先生方や地域ボランティアによる除架作業を行っているほか、クッションを置くなどの工夫をし、子どもが親しみやすい環境づくりに取り組んでいる。
- ・ 魅力ある図書館づくりは「人」がキーワードとなる。学校図書館の活性化には、私たち教員自身の意識を変える必要がある。

【話題2】学校図書館の積極的な活用について

《参加者から》

- ・ 市町村立図書館の協力で、子どもが図書館に足を向ける選書に取り組んでいるほか、地域ボランティアによるおはなし会を定期開催している。
- ・ ブックトークを録画し給食時間に放送するなど、子どもが図書館への関心を高める工夫に取り組んでいる。
- ・ 我が校は学校図書館の開館時間が短かったが、本日学んだことを生かして、より多く開館できるようにしたい。

【参加者の感想】

- みんな同じように悩みを抱えていることが分かり気持ちが楽になりました。みんなで色々なアイデアを出し合えてよかったです。
- 校区に公共図書館があるのに、今まで連携していなかったのもったいないことをしていました。



【その他の感想】（運営全般、学校図書館や子どもの読書活動について日頃感じていることなど）

- 図書館をもっと素敵な場所にして、子どもたちに来てもらいたいという意欲が沸きました！
- 本好きな子どもを育てるためには、学校だけではなく、地域や保護者、行政の取組も大切であること改めて感じました。連携して学校図書館を改善していけるように頑張りたいと思います。
- 学校で図書担当者は孤立しがちです。我がまちにも公共図書館の司書が回ってきて運営のアドバイスをしてくれたり、ブックトークをしてくれたりするシステムがあればいいのにと感じました。



【発行】北海道教育庁釧路教育局教育支援課社会教育指導班

〒085-0835 釧路市浦見 2-1-1

TEL : 0154-43-9285 FAX : 0154-41-2038

<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/krk/index.htm>

どさんこ
アウトメディアプロジェクト

大切な子どもたちの未来へ届けるメッセージ